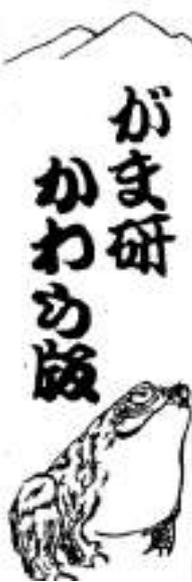




電子地形図 25000 部分 佐藤貞弘氏 提供

小町の館からの登山路も新たに開発され、年間十万人が訪れるという人気の宝篋山。その名称が統一され、国土地理院の地図に掲載されました。これは筑波山地域ジオパーク推進協議会が地名表記申請にかかる署名活動を行い、がま研をはじめ多くの方々の署名を頂き、つくばと土浦両市長からの掲載申請により実現したものです。ご協力有難うございました。国の地図に表示されたことで益々人気の山になる事でしょう。



がま研
かわら版

第 38 号
発行
筑波山がまの油売り口上研究会

「宝篋山(小田山)」 が地図に載りました！

前号で協力依頼のあった「宝篋山」の表記申請への署名活動。晴れて、その名が電子地図に掲載、ネット上に公開されました。今後地図や地形図に順次掲載されるようです。



1. 期 日：2019 年 5 月 18 日 (土)
2. 集 合：午前 9 時 30 分 解散予定：15 時 30 分
土浦市立博物館  駐車場 土浦市中央 1-15-18 ☎029-824-2928
3. 持ち物：博物館入館料 105 円、昼食代 1,000 円程度
タオル、飲料水等
4. 参加申込：4 月 26 日 (金) までに各教室代表まで
又は林会長 (☎029-862-3629) へ直接
5. コース：市立博物館(館内見学)→亀城公園(続日本 100 名城)→東光寺(芭蕉句碑)
→等覚寺(国指定の銅鐘)→霞月楼(資料室)→矢口家住宅(県指定建造物)
まちかど蔵「大徳」「野村」(国登録文化財)→**昼食会場**→**白水稲荷** ※
神龍寺(土浦全国花火競技大会発祥の寺)→市立博物館駐車場 解散
昼食はお好きな物をチョイスしていただく予定です。ふるってご参加ください。

参考 ※白水稲荷



↑白水稲荷神社鳥居

↓神社境内にある「がまの油の碑」



昭和五八年五月「がまの油の碑」が建てられ、碑文によると「白水稲荷神社の隣に長屋があり、この住人ががまの油を製造、常州筑波山麓土浦の『陣中膏がまの油』として広く発売した」とあります。

観光ボランティアガイドと歩く

土浦歴史街道まちめぐり



早

いもので、林先生のがまの油売り口上講座を受講してからもう二十年が経ちました。平成十一年に高松等の地方勤務を終えてつくばに戻ったのを期に受講を決意し、大事にとっておいた前年の募集記事を見ながら今年の募集を待っていました。勿論休むことなく全ての回に参加できました。

講座では口上とがまの油だけでなく、広くその背景と筑波山に係るお話があり楽しいものでしたが、前に出て行く参加者の特に男性の口上練習ではテキストを見ないで自分勝手な口上を述べる者が数人おり驚きました。これを見て口上とは如何にあるべきかなど悩んだりしましたが、講座最終日に第十八代永井兵助・岡野先生の口上を見せていただき、林先生の教えに沿って練習して行けば良いことを理解しました。と言っても、私が「がま口上」を強く覚えたいと思ったのは、上手に自己紹介し「格好良く見せたかった」からという不純な動機なのです。

地方出張の自己紹介の時に、地域によっては茨城県やつくば市のことを説明しても中々分かってもらえないことがあります。ところが「がまの油」を知っている人が意外と多いのです。これが夜の部となると一段と盛り上がるはずと常々思っていたので、某所で試したところ、大恥をかいてしまいました。

当たり前です。講座を修了し自主練習していると言っても、私は単にがま口上を知っている程度

私のがま口上二十年

佐藤 貞 弘

の地元の人でし
かなかつたよう
です。説明と、つ
たない前段の口
上に「それだ
け？」と言わ
れながらも
結構盛り上
がった様な
気がしまし
たが、さされ
る度に盃を
重ねたその
酒の苦いこ
と。中途半端

な私の口上に大いに自己反省させられました。

これではいけないと翌年も再度講座に参加しました。講座の一環だったのでしようか、大勢のお客さんのいるワークショップ江戸中村座前で、初めて林先生の口上を通して見ることができました。教室では分からなかったその素晴らしさに感動したことを覚えています。(実は、それ以降お客さんを前にした林先生の口上は見ることがないので、その時の想いを今でも大事にしています。) また、同じく講座を受けていた池田さんから練習会(後のつくばね会)に誘われ、宇野先生の厳しい教えを受けるようになりました。小学校庭の台上や職場屋上での声出しと

千姫まつり、中村座前、娘の結婚式、職場の送別会、帰省先の故郷で・「まだ恥ずかしさが出て



いるな」等言われながら多くの実践を重ね、平成十三年の「第一回筑波山がまの油売り口上全国大会」(写真上)に出場する事ができました。翌年の「第二回大会」にも出場しましたが、この頃道具と衣装揃え一気にながま口上のその楽しさを覚えたような気がします。

動機は不純でしたけれど、実践もさることながら常に基本を忘れないようできるだけ毎年のがま口上講座に参加し、多くの皆さんに楽しんでもらいながら、長く自分も楽しんで行きたいと思っていました。が、昨年は関節の病を発症し痛みで刀を抜くことができず、もうこれまでかと思えました。だが今は大丈夫。これまでに百七十五会場二百五十七回のがま口上を行ってきました。これが私の二十年間の足跡です。応援宜しくお願い致します。



↓第十八代永井兵助・岡野先生と共に写真に納まる佐藤氏。直筆の色紙は、「口上に向き合うエネルギーであり宝」と語る。

がまの油売り口上は人生を豊かにする！

小町塾 荒井 政男

今年七十二歳の歳男、あの七十二代横綱稀勢の里の出身地と同じ牛久に住み小町塾で腕を磨いて六年目を迎えました。

定年前からの願望であった「野菜作り」と現役の資格を活かした週三日の仕事をやりながらも何か社会との繋がりを持ちたいと思っていた。そんな矢先「がま口上」を教えてくれる記事を見た妻から「お父さん お父さんにピッタリの講座がありますよ！」と強く勧められ、その晩、林会長に連絡し今日に至っています。

小町塾に入会した当時の四名は、私と同じく毎月練習してきた成果を仲間（先輩）の前で発表し、大先輩の泉世話人から辛口評と期待を込めたコメントを頂きました。

全ての小道具を揃え、練習を積んでのデビュー戦は、不安と緊張を抱いての「日本一の桃源の里古河桃まつり」会場でした。その後茨城県フラワーパークでの披露となり.....

秋の地元文化祭に挑んだその翌日の朝には、我家の郵便受けに一枚のハガキが入っていた。

『昨日のがまの油売り口上・すごーく、とってもとっても「超」かつこ良かったです。昨日の文化祭の中で、いや過去の文化祭の中でダントツ一番良かったです。』

荒井さんの声、身振り、話し方、それに体型（ちよつとぼつちやり）でもびつたりで本当にステキでした。これからもいろいろの所で演じたらとても喜ばれると思いますよ』

と心強い声援文が記されていました。

もう一つ忘れてならない大事なものがありません。我がカミさんの「強力」（協力）です。小道具を揃えたのは私だが、布を扱う鉢巻、横幕、幟を含め手製の品は、カミさんが全て担当し、行く先々にも同行し着付けを手伝ってくれ、また観客の一員になり応援してくれている。感謝、感謝です。ちなみに彼女も第四十回目の研究会の修了書を頂いています。

十五分間のがま口上を通し最大の見せ場に直面し、この場面でお客様から大きな拍手、声援を頂いたときはたまらない。またイベント会場に来た観光客からツーショットを依頼される。実演を通しての、「ありがとう」「面白かったよ」「良かったよ」の言葉を貰



つたときは気持ち、身体もリッチになる。これからも時の話題を折込み、新作ががま口上を演じて行きたいと思えます。

今回、私達が演じている「筑波山名物がまの油売り口上」を沢山の方に知ってもらおうのと、己の元気を連絡するために、元の空港関連会社OB 会広報誌にも投稿しました。

平成三十年度の忘年会

今年度は水戸教室のお骨折りにより、丸徳旅館（ひたになか市）で忘年会が行われました。翌日は大洗磯前神社散策、牡蛎小屋での昼食買い物、めんたいパーク等、これまた盛りだくさんの楽しい時間となりました。



我が会最高齢の渡辺由正氏（前列右）も元気に参加され、大いに盛り上がりました。

「がまの油売り口上」再び講座を受けて

梅崎 孝臣

熱い思いに押されて「口上講座」を受講したのに、その後活動の機会を失し、デビューの機会を模索しているうちに数年が…と
 いう方は多いものです。その扉を開けたのは？

私が勤めていた当時、筑波山江戸屋でよく会議があり、会議終了後は宴会に移り「筑波山がまの油売り口上」を聞かされ、盃を受けるのも忘れて、興味深く身振り、手振りの口上があったのを覚えております。

退職後は、社会福祉協議会等の仕事が多くなりましたが、何か、カラオケだけでなく頭の体操になる「芸」を一つぐらい持ったらと思いい、二十四年に林先生の「がまの油売り口上」講座があることを新聞で知り、早速申し込み、講座を受けることができ、無事修了証書を頂くことができました。その後、小町塾に入会し、先輩達の指導を受け、小道具も浅草のフリーマーケットで一応揃えることができましたが、仕事の都合上小町塾での練習日に参加できず、半分諦めておりました。

ところが、運よく二十八年度「筑波山がまの油売り口上研究会」総会の講師として「刀剣と居合道」について講演された庄司真一さんと、茨城県立健康プラザ主催による「シルバリーハビリ体操指導士研修委員」の研修会でお会いすることができました。

庄司さんは、那珂市の事例発表の中で、冒頭よ

り「サーアサーお立合い、御用とお急ぎでない方は、ゆっくりと聞いておいで見ておいで」と始まり「がま口上」との関連性についても説明されました。

私も岩間地区で体操指導に当たっている関係、「がま口上」は人を引きつけ、親近感を与えるのはこれだと思いい、忘れかけていたがまの油売り口上をもう一度、一から見直そうと思いい、今回の講座を再度受けることにしました。

講座は第一回から第四回に分けて、林先生、佐藤先生による「口上を習得する秘訣、陣中膏がまの油のルーツ、筑波山に関する伝説」について講話と実技があり、歴史的伝統のある大切な「芸」であることがよく理解することができました。

また、星野和哉さんの実演には、小道具を使い声も大きく、受講生に参考となりました。

今回の講座には、岩間より、シル・リハ体操の指導に当たっている仲間であります女性二人が加わることになりました。一人は芸達者でチンドン屋、南京玉すだれ等もされているようです。これからは楽しみとなります。

私も初心に返り、もう一度「がま口上」を習得し、自信を持って体操教室、老人会等の会合で声を大きく出し、身振り、手振りができるよう努力していくつもりです。

これからは、小町塾に入会させて頂き、諸先輩の経験をもとに御指導をお願い致します。



H30年度の「がまの油売り口上」受講風景
 明日の口上師たちの熱い視線が注がれる

ホームページを訪れてください

しばらく休止状態だったホームページでしたが、会員の山口陽弘氏の尽力により動き始めます。今は仮設ですが漸次修正の予定です。アドレスは以下の通りです。

<http://gamaken.wp.xdomain.jp>

編集後記

いつになく開花が早いと予想される今春。そうではなくてもせかされる気がする花見の時期なのに。近年は自分で決めたお気に入りの桜の木に会いに行くことになって、人も団子も無縁です。花吹雪に紙吹雪、口上の最盛期でもあります。道中もお気をつけください。ご寄稿に感謝し、次号の原稿をお待ちしております。

編集子